



子どもとメディア 北海道

子どもとメディア 北海道

第10号
2012年
10月発行

2012年8月から10月までの活動報告

日時	会場	主催等	担当
9月9日(日)	白老町コミュニティセンター	白老町PTA連合会	中谷
9月20日(木)	上川教育研修センター	上川教育研修センター	諏訪
9月24日(月)	札幌市幌南小学校	札幌市幌南小学校 家庭教育学級	中谷
10月6日(土)	芽室町中央公民館	育児ネットめむろ (パパ中心の取り組み)	諏訪 中谷
10月23日(火)	中標津町総合文化会館	中標津町全町内会 連合会女性部	中谷
10月26日(金)	豊富町豊富保育園	豊富町豊富保育園	諏訪

【活動報告1：初めてインストラクター2人でお邪魔しました！】

去る、10月6日に中谷副代表と一緒に、「育児ネットめむろ」主催の講演会に招かれ、「子どもにとって大切なもの 芽室町のアンケートから考える子どもの未来」で講演させていただきました。3連休初日の夜にも関わらず、とてもたくさんの方々が参加してくださり、意識や興味の高さを感じました。

今回の講演の依頼を受けたのは5月でした。せっかくの講演なので、町の子どものメディア接触状況もお話ししたいと思い、アンケートをお願いしてみました。すぐにご了承いただき、迅速に対応していただくことができました。その手際の良さ、フットワークの良さに感心させられました。町内全域の保育園、幼稚園でアンケートを実施いただき、528人の保護者の方にご協力いただきました。

講演当日はお父さんたちの集まりである「パパスイッチ」のメンバーにもたいへんお世話になりました。講演会の準備から運営までとてもたいへんだったと思います。講演会後にお話しをさせていただいたのですが、どのお父さんも子ども達のことをとても大切に思ってくれる方ばかりで、とても嬉しい気持ちになりました。

今回の講演を通して、芽室町というところは、町をあげて子ども達の育児にとっても熱心に取り組んでいる町だということを実感しました。

メディア対策は大人たちが本気で取り組まなければ前には進みません。でも、芽室町なら、あのお父さん達なら、これからも子ども達のためにメディア対策を推し進めていって下さるに違いないと信じています。

こういう町もあるんだなぁと安心するとともに、他の町もこうなってほしいなぁと思う講演会でした。

【諏訪】

《**諏訪先生の資料から**》小児科ドクターだからこそその見識と説得力のあるお話でした。資料の中からみなさんにも紹介しますね。(パワーポイントの資料の中からの抜粋です)

講演の途中で諏訪先生が、「ドクター諏訪・心の一句」（名づけは中谷）
3句紹介しました。会場にほのぼのとした笑いが広がりました。紹介します！

「よしよしとあやす言葉に子は笑う メディアいらざのまぶしい笑顔」

「子どもらはあそび通して心身育つ メディア減らして楽しく元気」

「家族して過ごす時間は宝物 守り深めよう親子のきずな」

パパの感想を中心に
紹介します！

《芽室町参加者の感想》講演会で印象に残ったこと、興味深かったことを教えてください。

<p>ゲーム中毒者の脳が、薬物中毒者の脳に似ているということ。子育てのコツとヒント。勉強になりました。（30代・男）</p>	<p>家でもノーメディアの日を作りたいと思った。子どもと接する時間をたくさん作り、心豊かな人間になって欲しいと思う。（30代・女）</p>
<p>全てですが、メディアの影響が良く理解できました。メディアの危険性が良くわかりました。父親の協力が重要ということで、これから気をつけたいと思います。（40代・男）</p>	<p>データに基づいた諏訪先生のお話と、子育てのコツをふまえた中谷先生のお話、それぞれに厚みがあり良かったです。脳と発達心理的に、いかにメディアの影響を受けているか気づいた。（30代・女）</p>
<p>もっと脳の仕組み（ドーパミンと強化学習、前頭前野の働きなど）の話を知りたかった。科学(医学)的な裏付けもかなり進んでいるはずなので・・・その方が説得力が増すように思いました。 最終的には「家族機能の回復」「地域力の復活」これに尽きると思う！同感でした！新生児、乳児を育てている親を対象に何とかこのような研修ができたらいいですね。（30代・男）</p>	<p>非常に興味深い内容でした。手軽さ、気軽さの追求の結集の1つがメディアと考えますが、そればかり追求し続けると人間の心はすさむし、特に子どもには害になりやすいことを確認しました。 我が家にも3歳の坊やがいますが、メディアなしの遊びを伝えていこうと思います。また、メールは手軽ですが、トラブルが多く心が伝わりにくいものと考えています。中谷先生に同感です。（40代・男）</p>
<p>授業で「インターネットで調べてきなさい」ということがあることに驚きました。学校を含め社会がすでにディア漬けになっているということでしょう。子どもの学力向上、思考力を伸ばすのであれば、インターネット等で手軽に調べるより、図書館に行って図鑑・辞典などを開いて調べた方がいいと思うのですが。手軽に得た知識は手軽に忘れます。人は「手軽」な方に流れやすいのですが。（40代・男）</p>	<p>今までの我が子のメディアの接し方が間違っていなかったことがわかりホッとしました。そして、これから来る思春期への心構えも出来ました。 子ども達にも、メディアのことについて正しい知識を伝え、これからも話し合いながらその都度、子どもの発達に合わせて頑張りたいと思います。 ありがとうございました。（30代・女）</p>

【活動報告 2 : 札幌幌南小学校家庭教育学級、自主性にびっくり！】

9月14日、札幌市の幌南小学校にお邪魔しました。親御さんが事務局となり、学習会や講座を企画しているそうで、PTA活動が不活発な地域が多いことを考えると、その自主性にびっくりです。

この講演会を企画された委員会とはまた別に、広報の方にも声をかけられました。幌南小学校のPTA便りを自分達で積極的に作成しているそうです。その中で、メディア(ゲームやネット)についてのアンケートをとり、親が知りたいことがいくつも出てきたそうで、それに答えてほしいと依頼されました。文章で表わすと説明が足りない部分も出てきてしまうのですが、まとめましたので、その一部をこの情報誌でも紹介しますね。

《講演を聞いたお母さん方の感想から》

<p>子どもには携帯を持たせていて、フィルタリングをかけたりして注意をしているつもりなのですが、実際にあるリスクを具体的に教えていただけたのでよかったです。</p>	<p>まだ携帯を持たせていないので、持たせる前には家庭のルールをきちんと決めてから持たせたいと思いました。あと家族の会話もとても大事だなとあらためて実感しました。</p>
<p>いつも子どもに対してもう少しがまん強くなって欲しいと思い、注意ばかりしてきましたが、今日の話聞いて、できた時に認めたり評価する事ががまん強さを育むと聞いて、今日から口を出す事は控え、見守っていきたいと思いました。</p>	<p>子どもと対話する大切さを改めて感じさせられました。「子どもをケイタイに奪われるのはもったいない」という言葉に思わず深くうなずいてしまいました。メディア漬けにならない様、私(親)が責任を持って対応していきたいと思います。</p>
<p>2年生男子の親です。お友達でゲーム機を持っている子がけっこういて、本人も欲しがっていますが、今のところ我家の教育方針で買いません。持っていないとお友達と遊べない場合もあり、親の心も時折揺れ動きますが、今日のお話を伺ってもう少し頑張ってみようと思いました。</p>	<p>思春期を楽しむ！という話を聞いて、これから思春期に入っていく息子達と、肩の力を抜いて過ごせるような気がしました。テレビ、ゲーム、ネットなど反省する点が多々ありました。このような話は、子どもにも出前授業でぜひ受講してもらいたいです。</p>
<p>先日TVで、韓国では学校での授業は教科書が日本も遅れをとってはほしくないの、積極的に取り入れてほしいと思っていましたが、現在韓国でネットに対しての子どもへの影響が強くて、その対処に国をあげてやっているのを聞き、簡単に日本全国総ネット化は、危険だと感じました。</p>	<p>とても興味深いお話で、時間があつという間に過ぎてしまいました。特に中高生の特徴については、今後の子育てに関しても大変役に立つお話でした。 ケイタイやネットの子どもへの影響を考えて、大人がもっと規制をすることが大切だと思います。</p>

《親御さんからのQ&A》

Q1. キッズ携帯と普通の携帯多いのはどっち？切り替えのきっかけは？いつから持たせていい？(4年)

- ★小学生の時は、子どもの防犯を目的に携帯を持たせたいとする親御さんが多いようです。各社から、キッズ携帯やジュニア携帯等の呼称で販売されている機種の特徴は、セキュリティー機能(大音量のブザー・GPSなどの位置情報など)が充実していること、使い過ぎを防止するためにアクセス制限や時間設定、メールや通話の制限が設定できることをうたっています。しかしながらそれらの制限設定は、普通の携帯でも出来ることであり、要は防犯機能の充実以外は、普通の携帯と機能的にあまり変わらないということです。
- ★「子どもとメディア」では、携帯利用は通話のみから、ネットにつなげた状態(メールやサイト閲覧ができる)の携帯を持たせるのは義務教育が終了してから、とお勧めしています。それは、ネットの世界は、大人のつくった大人のものであり、法的に全く責任能力のない15歳までは子どもだけで利用させるべきではないと考えます。子どもの心と体がまだ大きく成長している義務教育の間は、望ましい生活リズムや現実世界での親や友人とのコミュニケーションが必要不可欠です。特に仲間外れにされたくない意識が最強となる中学時代に、24時間友人とつながれる情報端末を子どもに持たせるのは、親のその後の見通しと責任が問われます。

Q2. 携帯を持っていることによって巻き込まれるトラブルはどんなものがありますか？(5年)

携帯での陰湿ないじめがあると聞いたが、中学生まででそのようなことがあるのでしょうか？(2年)

*ネットの世界では、「守る大人の目が届かない」ことで様々な悪影響があります。子ども同士の人間関係がこじれやすい、いじめ・中傷が起きやすい、個人情報公開してしまう、暴力的な言動がエスカレートしてしまう、ネットにあふれる非行行動に慣れてしまう、ネット犯罪の被害者になる、ネット犯罪に加担する、薬物・凶器の入手、買春行動への敷居が低くなる、などなど。

*もうひとつ大きな心配は、依存しやすい性質を持ったものなので、長時間使用による悪影響です。Q1でも答えた内容に加えて、ネガティブな表現が多いことによる人格形成の歪みや、金銭感覚・社会性の麻痺、学業成績の低下、などがあります。何より思春期こそ楽しめる親子の会話の時間を奪ってしまいますのがもったいないと考えています。

Q3. 携帯を持たせる際の要注意のポイントは？(4年)

携帯を持たせる際にどのような家族観のルールを作ればよいかわかりません。(4年)

★「携帯がほしい」と言われたら「絶対だめ！」ではなく「あなたが必要な力を身につけたら持たせてもいいよ」と返事をしてみては？「子どもとメディア」が考える必要な力とは以下の7つで、かなり高度なモラルを持っていることが前提になります。ですから中学卒業までにこれらの力をつけさせ、それから持たせるのが妥当と考えます。

①感情的にならずに冷静に話せる ②相手が理解できる言葉で説明できる ③親や先生の(自分と異なる)意見を聞くことができる ④ケータイ・ネットを使用する目的や理由、注意することを書きだせる ⑤電子メディアの時間をコントロールできている ⑥子どもとしての能力を自覚し親に相談できる ⑦自分が守るルールを提案できる

★持たせる際のルールづくりのポイントは、以下の6つです。

①ケータイは親のもの(親の責任がとれるように、高校生でも料金は親が払う) ②使い方を親子の対話で決めよう(時間帯・使える場面、場所・夜は居間の充電器に置く、勉強の時間は持ちこまないなど) ③フィルタリングは絶対条件 ④何かあったら必ず親に相談する(ネットでの事は怒らない) ⑤約束を守れなかった時のペナルティー

【活動報告3：白老町・中標津町・豊富町】

9月9日(日) 白老町PTA連合会主催「白老町PTA研究大会」

*地元ではこれまで数回講演していますが、今回はかなり力を入れて話しました。「子どもの発達に影響を与えるメディアのリスクについて、問題提起していけるのは、していかなければならないのは、私達のような子育て教育関係者だけなのだ！」ということ強く訴えました。今回は、白老町長や教育長、教育委員のみなさんも最後まで聞いて下さったので、何かしらこれからの施策や事業に活かしていただけることを願っています。(中谷)

10月23日中標津町全町内会連合会女性部主催

*中標津町では、町内会連合女性部が勉強会を開催されました。女性議員の方が中心になり、さまざまな分野の現代的課題について、取り上げているそうです。参加者は60名にも上り、どの方も自分から学ぼうという意欲が溢れていて、本当にびっくりしました。前半は子育て支援について、後半は子どもとメディアについて話しました。(中谷)

10月26日(金) 豊富町豊富保育 (諏訪)

当日は、金曜日の夕方にも関わらず赤ちゃん連れのお母さんから、小学校の校長先生、国保病院の副院長先生など30人前後の方が参加して下さいました。講演後、何人かのお母さんから「来てよかった」というお言葉をいただき、また講演後数日たって保育園の先生から「講演を聴いた保護者から「この1週間に2日テレビを見ない日をつくりました。時間がたっぷりとあってすごくよかった。」とさっそく嬉しい報告がありました。」とご報告を頂きました。皆さんのお役に立てる講演になってよかったと実感しました。これからも「北海道 いつも どこでも どこまでも」の当会の精神で各地で講演できればと思います。

【活動報告 4 : 札幌市子育て支援情報誌「こそだてさっぽろ」に掲載】

来年度に取り組みたいこと ～みなさんの意見も聴かせて下さいね～

- ★ 芽室町で講演会の前に、諏訪代表と中谷副代表で、来年度やそれ以降に取り組みたいことを話し合いました。実際に会って会議などが出来ないため、まずは、取り組んでみたいことをいろいろあげてみることにしました。そして、会員のみなさんから意見をいただき、実現できそうなことから取り組んでいこう！ということになりました。

《来年以降に取り組んでみたいこと》

①インストラクターを活用してもらえようPRをする

各自治体の教育委員会の社会教育や家庭教育担当者に、NPO子どもとメディア認定インストラクターの活動を知ってもらい、講演や研修で活用してもらえようPRのチラシを送付する。

②自治体や学校で取り組んでもらいたいことをマスコミなどを通じて提案する。

例えば・・・

* 乳幼児期の子育て中の方に対して、NPO子どもとメディアで発行している小冊子「2歳まではテレビを消してみませんか？」を健診や新生児訪問の時に配布してみませんか？（ブックスタートならぬメディアスタートのすすめ）

* 保育園や幼稚園で、ノーメディアやアウトメディアの運動に取り組んでみませんか？（子どものメディア接触時間実態把握、保護者への啓発講演会、ノーメディアデイやアウトメディアデイの実施、実施後の変化の共有、など）

* 小学校で調べ学習の一環として「ネットでの検索の仕方」を取り上げる時に、こんな啓発をしてほしい。（親へのリスク説明、フィルタリングの奨励、子ども部屋にパソコンを置かないこと、大人と一緒に使うことの勧め、書き込みや自分のサイトを作るのはまだ早いと指導、など）

③全道の様々な地域でのアンケートの実施・分析

諏訪が昨年から取り組んでいる保育園や幼稚園、子育て支援施設の協力で行っているアンケートに協力してくれる園や施設を増やす。今のところ、本年度は6地域（21施設）に協力いただき、約1800件の回答を得ることができました。今年は小中学校でのアンケートも実施できましたが、その結果をみると、今後は小中学生でのアンケートを拡大する必要があると実感しました。

④会員のスキルアップ研修会の実施

これは、来年度ぜひ実施したい。諏訪代表の都合の良い時に白老町で開催する予定。

⑤HPの内容充実

講演会等でよく質問を受ける内容について、Q&A方式で応えるようなページを作りたい。

事務局（8ページ）へ メール・FAX・直接・電話などなどで
会員のみなさんの意見をお寄せ下さい。

- ★ 会員さんが参集する機会もつくらず、大変申し訳ないのですが、みなさんの意見をお聞かせ下さい。
- ★ 7ページの①～⑤は、インストラクターとして取り組みたいことが中心ですが、①～⑤の内容で、特にここに力を入れてほしいという所、また、その目的を達成するならこんな方法もあるのではないかというアイデア、などなどを思いついたことで良いので、お寄せ下さいませ。
- ★ 特に②については、これまでの講演活動などから見えてきた、各関係機関に「取り組んでもらいたいこと」をあげてみましたが、このような内容でいいのか、他にもこの点について取り上げてほしいなどの意見をお願いします。
- ★ それ以外に、以下の毛利さんのメッセージにもあるような、こんな内容を情報誌で取り上げてほしいとか、取り組んでほしい事業などありましたらお知らせ下さい。

子どもとメディア北海道会員大募集！！

～10月末に会員になって下さった 札幌市の毛利美樹さんの入会申込書に書いて下さった文章です～

タイムリーなことに今朝の北海道新聞朝刊に「携帯依存は健康の敵」と記事になっていました。テレビ、ケータイ、ゲームは子ども達の健全な発達を奪ってしまう可能性があるもので、注意が必要であると考えています。デジタルネイティブと言われる世代に、メディアとの接触をゼロにすることは難しいが、制限やルールの設定は必須と考えます。視力、思考力、何よりコミュニケーション能力の低下が、私は一番危ぐしております。

危機感を持っていても、親として日々子どもと接する中で、どうしたらよいのか、具体的な対応策、工夫がわからないということもあります。情報誌の内容にはそぐわないかもしれませんが、先輩ママさんの賢い工夫や、我が家のこんな取組、というような、ご家庭単位での取り組みがあるといいなあと思いました。

情報誌、楽しみにしております。勉強させてください。よろしく願いいたします。

毛利さんは、子どもの金銭教育や命の大切さを伝える「誕生学」のインストラクターをされていて、10月に白老町で誕生学の感動的な講演をして下さいました。講演の中でも、ネット上に氾濫している歪んだせい情報について危惧されていて、子どもとメディアの活動にも関心を持って下さいました。

子どもとメディア北海道 ホームページアドレス

<http://childmediahk.web.fc2.com/>

事務局(中谷 通恵 なかや みちえ)

〒059-0908 白老郡白老町緑丘1丁目3-34

TEL/FAX 0144-82-2685

メールアドレス michie-n@plum.plala.or.jp